



百日咳の流行が拡大中 早期の診断、治療が重要です！

令和元年 6月5日
富山県感染症情報センター
(0766-56-5431 直通)
(0766-56-8142 細菌部)
(0766-56-8143 ウイルス部)

感染症発生動向速報

(令和元年 第22週分・5月27日～6月2日)

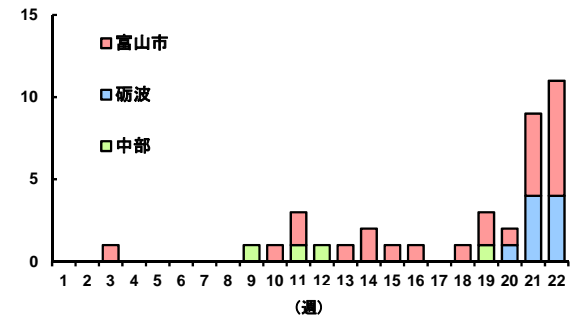
《 インフォメーション 》

●百日咳

百日咳は2018年1月から全数把握対象となりました。全国の1年間の発生動向調査から、5～9歳の患者が全体の約4割を占めることが判ってきました。

県内においても、第9週以降、小学生と推定される年代で、百日咳の患者発生が続いています。今年の報告数は6月2日時点で、昨年の報告数(23人)を超え、38人となりました。富山市、砺波、中部管内からの報告数が多い状況です(右図)。

(人) 富山県の百日咳患者報告状況(2019年、週別)



百日咳は、百日咳菌を原因とする急性の呼吸器感染症で、患者の咳やくしゃみなどに含まれる菌を吸い込むことにより感染します。百日咳は感染力が非常に強い感染症で、学校や集団施設における集団発生が報告されています。2週間以上咳が続く場合は、早めに医療機関を受診しましょう。百日咳の経過は以下の3期に分けられます。

カタル期：7～10日程度の潜伏期を経て、風邪に似た症状で始まり、咳が徐々に強くなります。

痙咳期(けいがいき)：百日咳に特徴的な咳発作(コンコン・・ヒュー)がおこります。

回復期：激しい咳発作は次第に弱くなり、症状が治まります。

特に、乳児では重症化しやすく、**無呼吸発作やチアノーゼなどの症状が現れ、重症化する場合がありますので注意が必要**です。わが国では、2012年から百日咳・ジフテリア・破傷風混合ワクチン(DPT)に不活化ポリオワクチンを加えた定期接種が導入されています。特に乳児を百日咳から守るためには、予防接種が重要となります。お子さんが生後3ヶ月になったら、出来るだけ早くワクチンを受けさせましょう。

《 全数報告の感染症 》

二類感染症 結核 5件 (①第21週診断分：70歳代、女性 ②③共に60歳代、男性 ④70歳代、男性 ⑤80歳代、男性)

四類感染症 レジオネラ症 1件 (80歳代、女性、肺炎型)

五類感染症 ウイルス性肝炎 1件 (10歳代、女性、B型)

水痘(入院例) 1件 (第21週診断分：80歳代、男性)

百日咳 12件 (①第21週診断分：50歳代、男性 ②③④全て10歳未満、男性

⑤～⑨全て10歳未満、女性 ⑩⑪共に10歳代、男性 ⑫10歳代、女性)

《 定点報告の感染症 》

今週の県内上位6疾患		定点あたりの数	
順位	疾病名	今週(増減)	先週
1位	感染性胃腸炎	9.31 (→)	9.31
2位	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.55 (↑)	1.93
3位	伝染性紅斑	1.31 (↓)	2.03
4位	水痘	0.66 (↓)	0.69
5位	突発性発しん	0.62 (↑)	0.28
6位	咽頭結膜熱	0.38 (↓)	1.00

この内容は以下のホームページでさらに詳しくご覧いただけます
アドレス <http://www.pref.toyama.jp/branches/1279/kansen/>

○感染症発生動向調査報告状況（令和元年第22週 令和元年5月27日～令和元年6月2日）

分類	疾患	今週報告分（第22週）						累積報告数						
		新川	中部	高岡	砺波	富山市	計	新川	中部	高岡	砺波	富山市	計	
二類感染症	結核	1	1	2			4	8	4	20	20	23	75	
三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症								1	3		4	8	
四類感染症	E型肝炎							2					2	
	A型肝炎							1					1	
	レジオネラ症				1		1			6	4	8	18	
五類感染症	アメーバ赤痢											1	1	
	ウイルス性肝炎			1			1			1			1	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症									2	1		3	
	急性脳炎											2	2	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症									2	1	1	4	
	後天性免疫不全症候群											3	3	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症									1	2		3	
	侵襲性肺炎球菌感染症									7	8	8	23	
	水痘（入院例）							1			1	4	6	
	梅毒									2	1	9	12	
	播種性クリプトコックス症											1	1	
	百日咳				4	7	11		4			9	25	38
	風しん								1			2	3	
	麻しん									1	2		3	
	定点疾病 (下段は定点当たりの患者数を示す)	インフルエンザ		1	1	1	13	16	1,425	912	3,117	1,690	3,623	10,767
			0.20	0.08	0.14	0.81	0.33							
RSウイルス感染症				1	3	2	6	11	19	51	11	70	162	
				0.13	0.75	0.20	0.21							
咽頭結膜熱		3		4	1	3	11	98	16	179	25	111	429	
		0.75		0.50	0.25	0.30	0.38							
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		4	5	18	8	39	74	80	92	408	176	733	1,489	
		1.00	1.67	2.25	2.00	3.90	2.55							
感染性胃腸炎		30	31	62	22	125	270	685	510	859	379	2,076	4,509	
		7.50	10.33	7.75	5.50	12.50	9.31							
水痘			1			18	19	15	12	31	11	183	252	
			0.33			1.80	0.66							
手足口病		1	1	1		2	5	16	11	14	3	81	125	
		0.25	0.33	0.13		0.20	0.17							
伝染性紅斑		7	2	11	3	15	38	67	20	313	75	213	688	
		1.75	0.67	1.38	0.75	1.50	1.31							
突発性発しん		2	1	5	1	9	18	19	24	83	22	82	230	
		0.50	0.33	0.63	0.25	0.90	0.62							
ヘルパンギーナ		2	1				3	60	3	4	2		69	
		0.50	0.33				0.10							
流行性耳下腺炎			1			1	1	3	6	1	16	27		
			0.13			0.03								
急性出血性結膜炎				1		1					11	11		
				1.00		0.14								
流行性角結膜炎		1	1			2	1	5	23	21	3	53		
		1.00	0.50			0.29								
細菌性髄膜炎											3	3		
無菌性髄膜炎							1					1		
マイコプラズマ肺炎								2	1			3		
感染性胃腸炎（ロタウイルス）							1		8	6	1	16		
インフルエンザによる入院患者（*）				1		1	41	42	52	97	98	330		

本週報のデータは速報値であり、今後、調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。

*インフルエンザによる入院患者累計報告数は、平成30年第36週(9月3日)～の集計です。